



くすの木



R6.1.11 文責：中平

1月の生活目標：給食のマナーを守って食べよう



明けましておめでとうございます

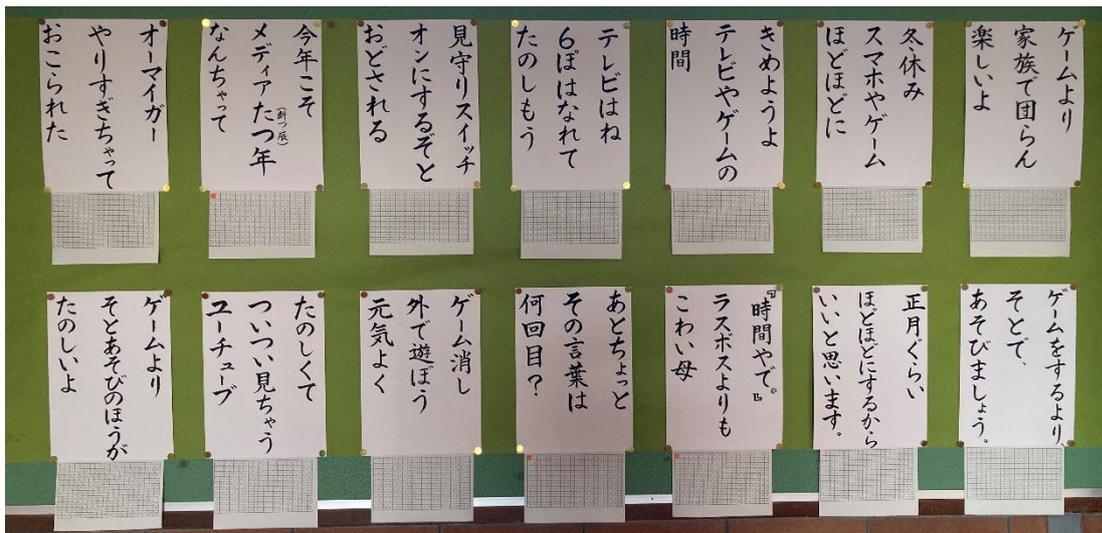


2024年が幕開けしました。私たちの周りは天候にも恵まれ、穏やかなお正月でしたが、石川県能登地方ではマグニチュード7.6という能登半島地震が発生し、亡くなられた方は200人を超え、未だに安否がわからない方も多くいらっしゃいます。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、安否がわからない方の一日も早い発見と被害にあわれた方のご健康等を願うばかりです。始業式では、私の話の中で能登半島地震にも触れ、今回のことを自分事としてとらえ、地震が起きたらどのような行動をとらなければならないのか、また、日頃からの備えについてもお家で確認しておいてほしいと子ども達に話しました。「備えあれば憂いなし」。是非、ご家族で話し合ってくださいと思います。

さて、3学期が始まりました。すでに登校する日は50日を切りました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去る、とも言われる3学期、一日一日を大切に過ごし、今の学年での締めくくりをしてほしいと思います。6年生にとっては小学校生活最後の学期、「有終の美を飾る」という言葉があるように、物事の結末をしっかりと

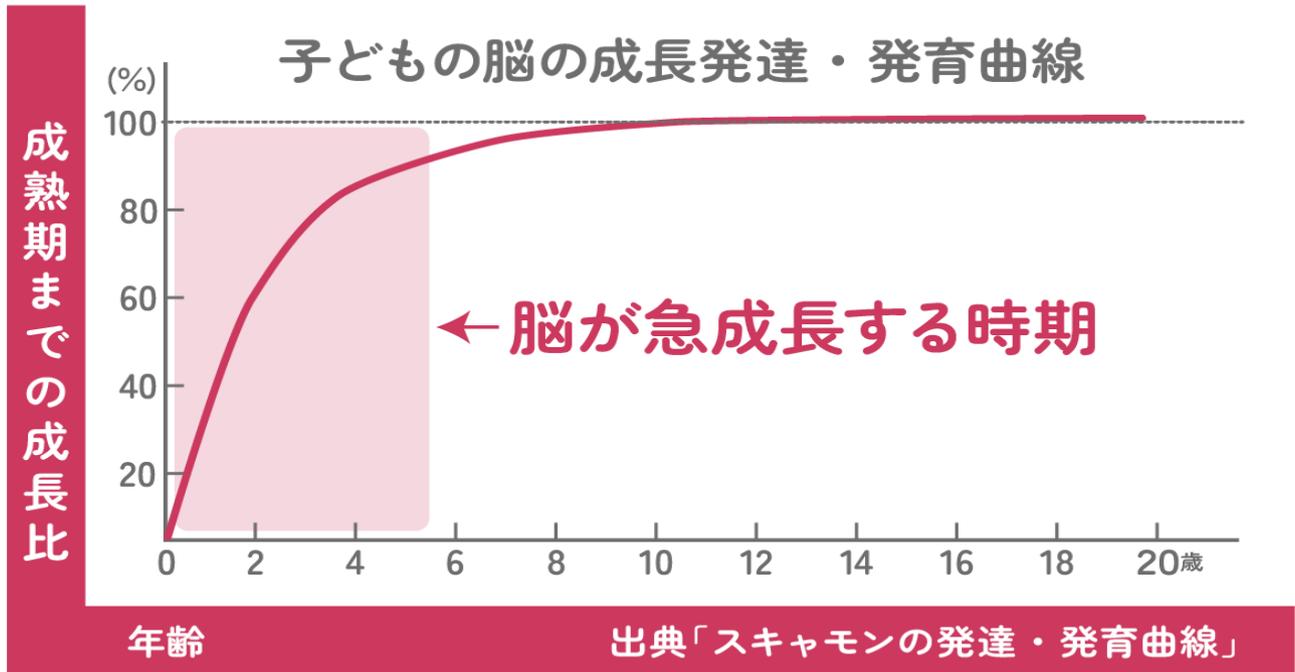
行うことが大切です。みなさん一人一人が、卒業式の時、修了式の時自分自身を褒めてあげられるようなそんな学期にしてほしいと思います。

👍 メディア川柳が出そろいました 👍



生活習慣の見直しと改善の目的で、子ども達がメディア川柳を考えました。各学級から代表作品が出され、その中から11日と12日の投票で最優秀作品が決定します。さてどの作品になるのでしょうか。楽しみです。

📖📖 脳の発達には読み聞かせが有効 📖📖



上のグラフは子どもの脳の成長発達・発育曲線を表しています。見ての通り、0歳から5歳後半にかけて、著しく脳が発達していることがわかります。また、この時期に絵本の読み聞かせを行うと、情緒面の安定も含め、知能的な発達が顕著であるとも言われています。また、以下のような話もあります。

「クシュラの奇跡」を知っていますか？

クシュラは、複雑な障害を持って生まれたニュージーランドの女の子で、複数の医師から様々な遅れが言われていました。染色体異常で内臓にも障害があり、筋肉麻痺でもあったため2時間以上は寝られず、3歳になるまで物も握れず、自分の指先より遠いものは見えなかったと言われています。しかし、生後4か月から両親が一日14冊の本を読み聞かせることを実行したところ、5歳になるころには彼女の知能は平均よりはるかに高く、本も読めるようになっていたということです。『クシュラの奇跡』（ドロシー・パドラー、1984）という本には、このようにクシュラという障害を抱えた一人の女の子が、周囲の大人の愛情と読み聞かせによって成長していく姿が記録されています。

絵本の読み聞かせを

クシュラは幼少期の絵本の読み聞かせによって著しい発達が見られました。また、上のグラフのように子どもの脳の発達は5歳後半までが急激な成長期となります。しかし、その時期を過ぎると、絵本の読み聞かせをしても無駄なのでしょうか。決してそうではありません。読み聞かせについては様々な研究がされていますが、研究結果からは、読み聞かせが子どもの創造力を育み、言語能力を高め、人間関係を豊かにするということが言われています。また、人間の声は、大人が子どもの精神状態を落ち着かせるための最も強力な道具であるという記述もあります。

本校でも、PTA 文化部主催の「保護者の読み聞かせ」を年間を通して行っています。3学期は1月31日（水）となっています（totoru でお知らせしています）。朝の時間帯でお忙しいことと思いますが、お時間が許される方は、是非参加していただき、子ども達に読み聞かせを行ってほしいと思っています。